

共生・公正・創造



東日本タイムズ号外

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~JRTU-HWU/>

ジェイアール東日本労働組合
 〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
 TEL(NIT)03-3453-2107 (JR)057-2290
 発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

【シリーズ15】

党革マル派の「完全沈黙」が意味するもの

ところで、ここでどうにも不思議でならないことがある。それは、「浦和電車区事件に対する革マル派の『完全沈黙』」ということである。革マル派は機関紙『解放』その他の言論活動においても浦和電車区事件に一切触れていない。事件の発生、7人の逮捕・起訴・拘留・保釈、東京地裁公判とJR総連・東労組の支援活動のすべてについて“完黙”である。過去、呆れるほどJR総連・東労組運動に関心を示し、陰に陽に応援してきたのに、こと浦和電車区事件に関しては完全に黙り込んでいる。党革マル派とJR革マル派、この両者の愛憎共に濃密な関係、阿吽の呼吸で演じてきた過去幾つかの仮面劇を見続けてきた者にとって、これは特筆に値する興味深い現象である。

周知のように、浦和電車区事件に関しては、「警視庁公安部は1日、JR東日本の運転士に嫌がらせして退社に追い込んだとして、同社労働組合『東日本旅客鉄道労働組合（JR東労組）』の大宮地方本部副執行委員長で、過激派・革マル派幹部のJR東日本社員、梁次邦夫容疑者（53）ら同労組組合員と元組合員計7人を逮捕、……」（02・11・1読売新聞）などと革マル派との関係が明確に報じられた。

また、「今回の被疑者の中には警察で革マル派活動家と見ている者が一人おり、また他の者も、被害者を脅迫する過程で『俺は革マルだ』というような発言を行っているところである」（02・11・6奥村・警察庁警備局長〈現警視総監〉国会答弁）との明言もある中で、“あの革マル派”が完全に沈黙を守っているという信じ難い対応ぶり。

革マル派は、東労組・浦和電車区事件に対して全くコメントしない、というよりできないという「これまでの革マル派らしからぬ振る舞い」こそが、党革マル派とJR総連・東労組執行部との間の関係の深さ、東労組・浦和電車区事件発生の深刻性、その取り返しのつかなさ、を明瞭に物語っていると思う。

たしかに中核派の言うとおり、「革マル派の幹部でJR東労組の役員が……」などと逮捕・起訴報道されているのにもかかわらず、本来饒舌で抗議好きな革マル派が、ひたすら沈黙を守り続けている奇怪な状況は、「異様」なことである。

現在、革マル派中央とJR革マル派、言い換えれば「トラジャ」と「マンガローブ」の深奥部で、どのようなやりとりが行われているのか興味深いものがある。

< JR東日本労政『二十年目の検証』62ページから65ページより抜粋 >

民主化の声・声・声・・・

2005.10.31

その15

長野地本が「緑の風号外」に反論！

長野地本から本部に「要請書」提出！

東労組長野地本松本支部情報紙「達観 23」によると、9月28日付の「緑の風号外」に対して『ウソはまずい！』と反論している。

（美世志会を）呼ばないなんて誰も言っていない。また決めていない。
指令8号については、認識は違うが臨時大会を開催すると受け入れている。
本部柳原副委員長が那賀の地本大会で「本部大会と違った方針を決めましたね。確認します」と通告したと言うが、そのような事実はない。
長野地本発3号に対する本部の見解が記載されていないが、どう答えたのか？
（囲み記事で）いわゆる4.15集会問題について書いてあるが、本部調査委員会の報告と本部指導が明らかにされていない今日では、必ずしも正確な情報とは言えない。
2003年9月の調査委員会で「執行委員会預かりとし、事態の推移を見守ることにした」と書いてあるが、このことが長野地本に伝えられたのは今年の4月18日だ。
本部千葉書記長が「この問答会議で十分説明してきた」と書いてあるが、全く事実と違う。

また、同紙「達観 24・25」によると、9月30日、長野地本から本部に「指令11号に対する2件の要請書」を提出している。要請書の中身は、（千葉書記長が約束した）峰田委員長の本部面談の議事録を早急に送ること。（9月20日開催の）第4回中央執行委員会の議事録を開示せよ。峰田委員長の『臨時大会を開催する』との主張が、何故指令違反になるのか。具体的根拠を明らかにせよ。峰田委員長に対する執行権停止、組合事務所立ち入り禁止の具体的根拠を明らかにせよ。と、書面回答を求めている。この要請書は時期的に考えると、9月30日の（本部役員を呼ばなかったという）「長野地本・秋の大集会」で確認されたのだろうか。

これに対して本部は、10月1日付の東労組機関紙「緑の風第402号主張欄」で、『総団結は枕詞ではない！具体的実践である』と反論している。東労組組織破壊攻撃に抗し、具体的に実践することだそうだ。主張欄によると、9月22日に開催した全地本委員長会議に、長野地本は代行が決まらずとして欠席したようだ。

本部と長野地本との溝は深まる一方である。